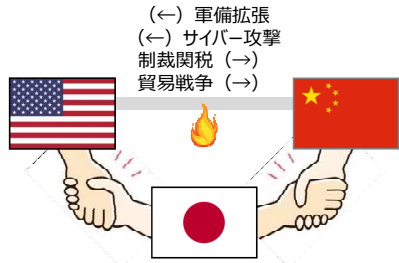


米中新冷戦の幕開け～日本企業が備えること～

サイバー適塾18期 安全保障グループ (2020年3月)

背景

【現在：米中对立】



米国に安全保障を依存

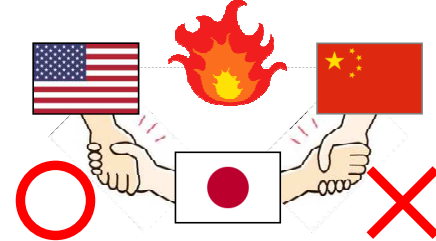
周辺国の脅威に対して、日米同盟を軸にした米国の軍事力が抑止力になっている
(日本の防衛費：5兆3,133億円、日米同盟が解散した場合の日本の負担額：約25兆円)

中国に経済を依存

- 特に、サプライチェーン、インバウンド
- その中でも、**関西経済** (輸出先の中国比率、訪日外国人の中国人比率が突出して大きい)

【今後：米中新冷戦】

米中経済の分断 (デカップリング)



- 安全保障事情から、米国に協働せざるを得ない
- **中国と距離を取らざるを得ない**

日本経済の危機!

米中関係悪化

日本企業 (中でも関西企業) は、米中デカップリングにより引き起こされる日本経済の危機を回避する策を用意しておく必要がある。その策を三つ提言する。

提言1. マーケットからみた提言：中国代替マーケットの確保

今後も世界における巨大マーケットであり続ける中国。代替マーケットの確保は最重要課題。
【候補国を抽出した観点】 2050年の人口予測・GDP予測・カントリーリスク。さらにその中から、貿易状況・対日関係・対中関係等によって、インド、インドネシア、メキシコに絞り込んだ。

中国		3か国合計	インド	インドネシア	メキシコ
1,348	2050年人口予測 (100万人)	2,191	1,705	322	164
58,499	2050年GDP予測 (10億米ドル)	61,493	44,128	10,502	6,863
C	カントリーリスク	-	D	D	D
-	対日関係	-	良好	良好	良好
-	対中関係	-	弱	中	中
-	総合評価	-	◎	○	○

インド、インドネシア、メキシコの3か国にアプローチ
中国と同規模のマーケットを確保、かつリスク分散を実現

提言2. 生産拠点からみた提言：中国の代替生産拠点の確保

日本企業は、中国を生産拠点としても注目している。代替生産拠点の確保も必須課題。

【ベトナムを抽出した観点】 経済状況・賃金水準・対日関係・対中関係

ベトナム

【長所】

- 発展中の工業国。すでに生産拠点の基盤が整いつつある
- 豊富で安価な労働力 (+ 勤勉・若い)
- 良好な対日関係
- 脆弱な対中関係。歴史的背景から、中国の隷属国になる可能性はゼロに近い。

【短所】

- ★ 原材料・部品などの現地調達率の低さ
- ☆ 労働者の技術力不足
- インフラ整備不足

★ベトナムの原材料・部品の現地調達率の低さを日本の生産拠点活用で解決!

- ☆ベトナムの技術力不足・日本の労働力不足を越日の人材交流で解決!
 - ・ベトナム人留学生を日本の生産拠点で雇用し、ベトナム生産拠点の幹部候補を養成する
 - ・ベトナム人を日本の生産拠点で雇用することで、日本の労働力を確保する

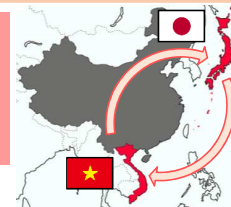
日本

【長所】

- ★ 部品から組み立てられた製品までの現地調達率の高さ
- 品質の高さ
- 安全性と信頼性の高さ

【短所】

- 東南アジア諸国と比較して高い賃金
- ☆ 少子高齢化による労働力不足

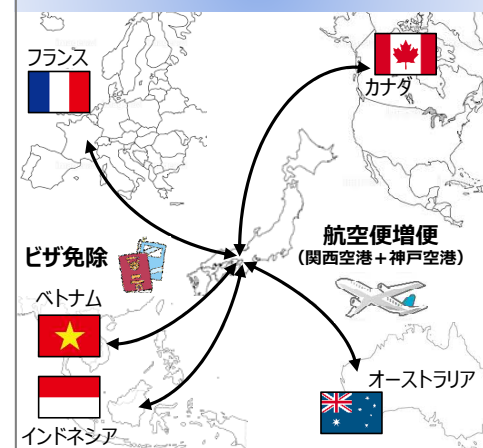


ベトナムにアプローチすると同時に、日本に回帰
お互いの長所を得て短所を補うハイブリッド型生産拠点を構築、中国の生産量をカバー

提言3. インバウンドからみた提言：ミレニアル世代へ訴求

【ミレニアル世代に着目した理由】 安全保障、地政学リスク、パンデミックに左右されにくい。世界の総人口の25%を占める。1980年～2000年に誕生したため、デジタルネイティブ。

① 就航便の増発とビザ免除協定の締結



② 在日外国人をアンバサダーとした日本発信チャネルの確立



↑チャイナプラスワン候補国：フランス・オーストラリア・カナダ・ベトナム・インドネシア (訪日するミレニアル世代の割合の高さから抽出)

「チャイナプラスワン」となる国々から、訪日外国人を呼び込む